

ゆりはまにあ

2023年5月10日発行

湯梨浜町観光協会

〒682-0715 鳥取県東伯郡湯梨浜町はわい温泉 5-22

TEL(0858)35-4052 FAX(0858)35-4701

H P <https://www.yurihama-kankou.jp/>

F B <https://www.facebook.com/yurihamakannkou>

湯梨浜町観光協会  会員募集中

湯梨浜町の歴史を学ぼう！

湯梨浜町の誕生！

湯梨浜町は2004年(平成16年)10月1日に羽合町、東郷町、泊村が平成の市町村合併により誕生しました。あれからおよそ20年を迎えようとしています。

どうして「湯梨浜町」になったの??

合併前に3町村で法定協議会を設置し「新町名は現在の3町村の名称は使用しない」等を条件に、住民を中心に公募を行いました。応募は1653点、1039種類もあったみたいです。

合併協議会で最終候補5点(湖周、東ほうき、美郷、伯耆、湯梨浜)を選び、その中から住民アンケートで最も支持の多かった「湯梨浜町」に決定しました！この「湯梨浜」という名前には、はわい温泉や東郷温泉があり(湯)、日本一の生産量を誇る二十世紀梨(梨)、快水浴場百選に選ばれる鳴砂の浜、石脇海岸やハワイビーチ等(浜)という特色を合わせて湯梨浜町になりました。



湯梨浜町の天女キャラクター

ゆり町

湯梨浜町と言えば二十世紀梨！

鳥取県と言えば「二十世紀梨」と思い浮かべる方も多いかと思いますが、全国で見ても梨の生産量は日本の約半分を鳥取県が占めており、その中でも湯梨浜町は、県内で一番の生産量を誇っています。

最初から湯梨浜町にあったの??

湯梨浜町で二十世紀梨が栽培されるようになったのは1906年(明治39年)今年で116年となります。当時、湯梨浜町久見で農家を営んでいた更田安左衛門さんがその枝を譲り受け、ご自身の果樹園にあった早生の赤梨に接ぎ木したところ見事な梨の木に成長しました。その木は百年樹とよばれ現在でも湯梨浜町久見にて多くの梨を実らせています。



百年樹

二十世紀梨の歴史

では、二十世紀梨の出身はどこなのか？それは現在の千葉県松戸市なんです！1888年当時13歳の松戸覚之助さんが親戚の家にあるごみ捨て場で芽を出した状態の梨の苗を発見しました。その苗を親戚から譲り受け、覚之助さん23歳の時にようやく実を結んだのです。覚之助さんはその梨に「新太白」と名付けました。その梨は果汁もたっぷりで甘く非常に美味しかったとのこと。その後東京で農家を営んでいた渡瀬寅三郎さんが「二十世紀の代表的な梨になって欲しい」という思いを込めて「二十世紀」と名付けたのが二十世紀梨の始まりとされています！



梨の起源は
1千万年以前と言
れてるよ！

はわい温泉・東郷温泉の歴史

はわい温泉

はわい温泉のは江戸時代（1843年）に湖底からお湯が湧いているのが発見され、温泉として利用する事を鳥取藩に願い出たのが始まりです。また、温泉が湧き出ていることを東郷池の鯉が教えてくれたという伝説から、はわい温泉は「こいの湯」とも呼ばれています！

——「はわい温泉」という名前になるまでの道のり——

- 1866年：「青空湯場」・・・湯村幸助さんが湖上に浮かべた船の中に樽を置き、そこに温泉を溜めて浴槽とする。（浴槽の名前は幸助湯）
- 1886年：「浅津温泉」・・・幸助さんが湖岸を埋め立て温泉旅館を開業する（現千年島の一軒宿 千年亭）
- 1927年：「新東郷温泉」・・・東郷温泉の湖畔から連絡船が整備され松崎駅からのお客様が増える
- 1950年：「浅津温泉」・・・再度浅津温泉に複称される
- 1978年：「羽合温泉」・・・羽合町創立25周年を記念して改称
- 1998年：「はわい温泉」・・・イメージアップを図り羽合町が改称する（現在の名称）

歴史宿の日帰り入浴のご案内 千年島の一軒宿 千年亭

入浴時間：11:00～21:00 大人： 1,000円
お問合せ：0858-35-3731 小人： 500円

※季節やお客様の入り具合により異なる場合がございます。



東郷温泉

東郷温泉は明治元年（1868年）に温泉として利用され、明治5年（1872年）に龍湯島に浴槽が設けられたのが始まりとなっております。そして地元の豪農山楯直好さんが東郷池湖畔の泉源を開発し「養生館」という別荘を建て、疲れを癒す養生の場として浴場を開放しました。その後養生館は明治17年（1884年）に旅館業を営むようになったのが東郷温泉の始まりです。



歴史宿の日帰り入浴のご案内 湖泉閣 養生館

入浴時間：13:00～19:00 大人： 1,000円
お問合せ：0858-32-0111 小人： 500円

※季節やお客様の入り具合により異なる場合がございます。

東郷池の湖底にはマグマが固まって出来た“花崗岩”があり、その割れ目から温泉が湧出てるよ！その岩はおよそ6600万年前～2303万年前にできた物とされてるよ！



衝撃

湯梨浜町天女伝説

湯梨浜町には天女が舞い降りていた!?

羽衣石天女伝説



昔々、伯耆の国に小さな村がありました。ある日そこに住む若い百姓が山へ出掛けると山腹の岩にそれは美しい衣が置いてあるのを見かけました。あまりの美しさに若者はその衣を持って帰ってしまいました。その衣はなんと近くの泉で水浴びをしていた天女の物だったのです。衣が無く帰れなくなってしまった天女は仕方なく村へ下りて衣を持って行ってしまった若者のお嫁さんになります。

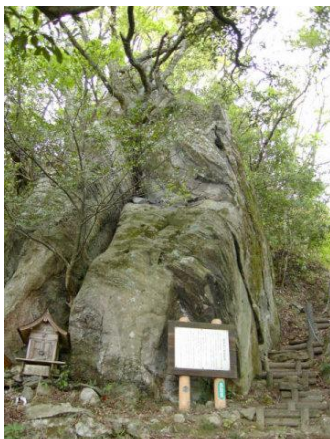
数年の時が流れ二人の子供を授かった天女は子供達から衣が隠されている場所を聞き出すと、その羽衣を身にまとい天へと帰って行ってしまいました。それを見た子供達はひどく悲しみました。

天に帰ってしまった母を呼び戻そうと子供達は母が好きだった音楽が天に届く様に、母が天に昇っていった山に登り奏でます。その後二人の子供達を見た者はおりません。天女が迎えに来てくれたのかもしれないですね。

二人の子供の笛の音・太鼓の打つ音はいつまでも山に響き渡り、いつしか「打吹山」と名付けられたようです。(諸説あり)



私の羽衣は持って帰らないでね ♡



町内には沢山の天女伝説
にまつわる物があります!



←羽衣岩(天女が羽衣をかけていた岩)

羽衣天女(はごろもてんによ)



伯耆国一ノ宮 倭文神社

伯耆国一ノ宮（現在の鳥取県中西部で一番社格が高い神社）倭文神社についてご紹介します。

“いちのみやさん”の愛称で呼ばれ古くから安産の神様として親しまれています。創立年代は不詳ですが、平安時代初期（808年）の文献にて既に存在が確認されており、また境内の塚から出土した品から平安時代後期にはすでに伯耆国一ノ宮であることがわかっております。このときの出土品である観音菩薩立像（左）や銅経筒（右）等は**国宝**に指定されています。

主祭神は建葉槌命（たけはづちのみこと）です。創立当時この地方の主産業が倭文（しずおり）と呼ばれる古代の織物でした。そこで織物や機織の神様である建葉槌命が祀られました。また下照姫命（したてるひめのみこと）が倭文神社に住を定め、安産の指導、農業開発、医療普及等に努めたとされ、近年までは主祭神となっております。



境内に至るまでの参道横に”安産岩”があります。その昔難産に苦しむ婦人が願をかけたところ夢に下照姫命が姿を現され、お詣りの帰りに安産岩にて簡単に出産する事が出来たという云われから安産岩と称するようになりました。現在でも安産祈願に沢山の方が訪れております。一般的に安産祈願は妊娠5か月目の戌（いぬ）の日にするとよいといわれています。是非倭文神社へお問い合わせください。

〈安産祈願お問い合わせは 倭文神社社務所 Tel:0858-32-1985〉



倭文神社



宵宮(毎年4/30)

今月号は以上です！ここで湯梨浜町観光協会に新しい仲間が加わりましたのでご紹介致します。

こっち↓



中本 剛史
35歳

国籍：日本 出身：湯梨浜町上橋津

趣味：神社や観光地巡り

学生時代は水泳や将棋、詩吟をしてました。

最近は神社巡りにハマってます！休みの日には今、鳥取県内で行われている「開運神社巡り」をしようと思ってます。

湯梨浜町生まれ湯梨浜町育ちです。観光事業は未経験ですが、持ち前の元気さと明るさで湯梨浜町を盛り上げていきたいと考えてます！

また、今後の「ゆいはまにあ」を担当いたします。次回も是非ご覧ください